

看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	14	大学生生活論
1年	20	課題探究ゼミナールⅠ
1年	28	病理学
1年	29	病態治療学Ⅰ
1年	30	病態治療学Ⅱ
1年	31	病態治療学Ⅲ
1年	36	臨床看護総論
1年	40	基礎看護技術Ⅲ
1年	41	基礎看護技術Ⅳ
1年	43	看護過程論
2年	51	英語Ⅱ
2年	58	課題探究ゼミナールⅡ
2年	79	母性看護学援助論Ⅱ
2年	83	精神看護学援助論Ⅱ
2年	87	在宅看護学援助論Ⅱ
2年	89	災害看護
3年	99	精神看護学実習

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-01			
	●		●	●					
科目名	大学生生活論				単位認定者	菅原 尚美		課題	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	大学生生活論 ノート	40 %
						授業時間数	30 時間	受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康に関わる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が会おうところの問題等）を身につける。								
到達目標	1. 社会生活における基本的な知識やスキルを身につけ、学生生活の中で実践することができる。 2. 学修する上で必要な汎用的技能と主体的な学修態度を養い、グループワークやレポート作成に活用することができる。								
学修者への期待等	日々の学生生活の中で自分を取り巻く社会に関心を持ち、イベントや係活動など共通の課題や目標に向け多くの仲間と協力することによって、学生生活への適応や、社会人としての基本的な能力を獲得・向上させることを目的とした科目である。有意義な大学生生活を通して自己の目標を達成するために、主体的かつ積極的に取り組んで欲しい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	本学・本学科の教育方針、大学生生活論について				【事前】授業資料、学生便覧、シラバスを読む（30分） 【事後】事後課題に取り組み提出する（30分）			菅原 尚美	
2	大学生生活にかかわる基礎知識1（学生生活におけるルール）							学生総合支援センター	
3	大学生生活にかかわる基礎知識2（看護学科カリキュラム、学生の支援体制（各種委員会の活動内容））							菅原 尚美	
4	大学生生活にかかわる基礎知識3（学生の支援体制（チューター制）、チューター紹介など）							菅原 尚美	
5	スタディスキル1-①（ノートテイキング・リーディング）							菅原 尚美	
6	大学生生活にかかわる基礎知識6（ネット社会の危険について）				【事後】事後課題に取り組み提出する（30分）			菅原 尚美	
7	スタディスキル2（図書館の活用法）				【事後】事後課題に取り組み提出する（30分）			学生総合支援センター / 菅原尚美	
8	大学生生活にかかわる基礎知識4（労働条件について）							学生総合支援センター / 菅原尚美	
9	大学生生活にかかわる基礎知識5（消費者トラブルについて）							学生総合支援センター / 菅原尚美	
10	健康に関する知識1（睡眠、食生活、ドラッグの危険性について）				【事前】事後課題を提出する（30分）			大友 緑	
11	健康に関する知識2（こころの問題について）							学生総合支援センター / 菅原尚美	
12	「わたし」の睡眠・食生活について考える：リサーチ				【事前】事後課題を提出する（30分）			菅原 尚美	
13	看護学生の睡眠・食生活について考える1：リサーチ				【事前】事後課題を提出する（30分）			菅原 尚美	
14	看護学生の睡眠・食生活について考える2：報告書の作成				【事後】レポート作成（1時間）			菅原 尚美	
15	1年間のまとめと課題の明確化				【事後】事後課題・大学生生活論ノートのまとめと提出（1時間）			菅原 尚美	
教科書	特になし。授業内で資料を配布する。								
参考文献	必要時提示する。								
備考	授業の内容によっては非常勤講師が教授する。 チューターグループや係活動については、1学年チューターの教員がグループの指導にあたる。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の資格を有し、看護教員経験のある教員が、看護学生の大学生生活にかかわる基礎知識を教授する。その他、事務職員による教務ガイダンス、図書館司書によるスタディスキル2「図書館の活用法」、警察職員による「交通マナー」、また関連する企業から講師を招き「消費者トラブル」、「ネット社会の危険」に関する講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-FSF-03				
	●	●		●						
科目名	課題探究ゼミナール I				単位認定者	菅原 尚美 竹田 理恵		ポートフォリオ (成果物)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		15 時間	受講態度
				授業回数		8 回				
授業の概要	プロジェクト (目標を達成する構想) 学習などを取り入れながら、課題解決力やクリティカルシンキングを身につけ、自ら学べる力を養う。 プロジェクト学習とポートフォリオの基本について学ぶ。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクト学習とポートフォリオの基本について理解する。 2. 目標を明確にし、到達するための方法を考え、計画することができる。 3. 目標の到達に向かって自らの意思で努力し、行動することができる。 4. 目標に到達するまでのプロセスや成果物を振り返り、自己の成長を評価することができる。 									
学修者への期待等	プロジェクト学習では、学生一人ひとりが主役です。「何のために、何を成し遂げたいのか」を明確にして目標を決め、目標到達のためには、「どのようにしたら良いか」を考え、行動できる”自分”となって欲しいと思います。そして、2年、3年次に向けて、自ら学ぶ力を養ってくれることを期待しています。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】プロジェクト学習とポートフォリオの基本				【事前】看護師を目指したきっかけや、目指す看護師像を見つめ、なりたいたい自分を思い描いて授業に臨む。(1時間) 【事後】課題の提出 (30分)			菅原 尚美 竹田 理恵		
2	自己目標を決める (準備、ビジョン・ゴール) ~ 社会人基礎力自己分析とイメージマップの活用 ~ : 実技				【事後】課題に取り組み提出する (30分)			菅原 尚美 竹田 理恵		
3	自己目標に到達するまでの計画を立案する (計画) : 実技							菅原 尚美 竹田 理恵		
4	目標到達に向けて必要な情報の収集やリサーチを行いファイリングする (情報リサーチ、制作) : 実技							菅原 尚美 竹田 理恵		
5	目標到達に向かうプロセスと成果を共有し振り返る : グループワーク、プレゼンテーション							菅原 尚美 竹田 理恵		
6	目標到達に向かう方法や行動の見直しとポートフォリオの整理 : グループワーク、プレゼンテーション							菅原 尚美 竹田 理恵		
7	目標到達の自己評価とポートフォリオの完成 (評価) ~ 社会人基礎力自己分析の実施 ~ : 実技							菅原 尚美 竹田 理恵		
8	プロジェクト学習とポートフォリオの振り返り : 実技、グループワーク、プレゼンテーション				【事後】ポートフォリオを完成させ提出する (1時間)			菅原 尚美 竹田 理恵		
教科書	「課題解決力と論理的思考力が身につく プロジェクト学習の基本と手法」鈴木敏恵著、教育出版									
参考文献	「看護職としての社会人基礎力の育て方 第2版」箕浦とき子・高橋恵、日本看護協会出版会									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の資格を有する教員が、看護師に必要とされる課題解決力およびクリティカルシンキング、主体的に学習する力を身につけられるよう、プロジェクト学習とポートフォリオの基本について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-FSF-13				
	●	●								
科目名	病理学				単位認定者	齋木 由利子		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業態度	15 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	病理学とはどんな学問か、その領域や、健康を維持するための生体の回復力および病気へのなりやすさについて、その概要を学ぶ。また、病理解剖、診断病理学の医療における役割についてや、細胞・組織とその障害、再生と修復、循環障害、炎症、免疫とアレルギー、代謝異常、老化、先天異常、腫瘍の概略を学ぶ。各論としては、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、造血器系、腎・泌尿器系などの機能と主な障害の機序について学ぶ。									
到達目標	種々の疾患において生ずる臓器や組織、細胞の形態的变化について学び、これらを説明できるようにする。									
学修者への期待等	病理学は医学の基本となる学問の一つです。種々の疾患に関する基礎的な知識の理解、修得に努めてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	教科書1章(はじめに) 講義 小テスト①					【事前】授業テーマについて教科書で調べること。 【事後】授業の復讐をして小テストを行うこと。 (事前、事後あわせて概ね1時間以上行う)				
2	小テスト①解説 教科書2章(細胞障害・再生害) 講義 小テスト②									
3	小テスト②解説 教科書3章(炎症) 講義 小テスト③									
4	小テスト③解説 教科書4章(免疫-1) 講義 小テスト④									
5	小テスト④解説 教科書4章(免疫-2) 講義 小テスト⑤									
6	小テスト⑤解説 教科書5章(循環障害) 講義 小テスト⑥									
7	小テスト⑥解説 教科書6章(先天異常・遺伝性疾患) 講義 小テスト⑦									
8	小テスト⑦解説 教科書7章(感染症) 講義 小テスト⑧									
9	小テスト⑧解説 教科書8章(環境因子・栄養) 講義 小テスト⑨									
10	小テスト⑨解説 教科書9章(腫瘍) 講義 小テスト⑩									
11	小テスト⑩解説 教科書10章(難病・代謝性疾患) 講義 小テスト⑪									
12	小テスト⑪解説 教科書11章(環境因子・生活習慣病) 講義 小テスト⑫									
13	小テスト⑫解説 教科書12章(老年症候群) 解説 小テスト⑬									
14	小テスト⑬解説 教科書13章(さまざまな臓器の疾患と病態) 講義 小テスト⑭									
15	小テスト⑭解説									
教科書	「はじめの一歩の病理学」 深山正久編・羊土社									
参考文献	「ロビンス基礎病理学 原著10版」 ビナイ・クマール原作、エルゼビア・ジャパン									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●									
科目名	病態治療学 I				単位認定者	田林 暁一		評価の方法	試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間				
						授業回数	15 回				
授業の概要	口腔・頸部機能障害,呼吸機能障害,循環機能障害,排泄機能障害について理解する。口腔・頸部機能障害では頸部腫瘍,甲状腺疾患等,呼吸機能障害では呼吸器感染症・肺癌・慢性閉塞性肺疾患・呼吸不全等,循環機能障害では虚血性心疾患・不整脈・高血圧・心不全等,排泄機能障害では腎疾患・尿路系疾患・男性生殖器官の腫瘍等の病態生理,診断,治療について学ぶ。										
到達目標	口腔・頸部疾患,甲状腺・副甲状腺疾患,呼吸器疾患の病態と治療,循環器疾患の病態と治療,高血圧症の病態と治療,真性大動脈瘤の病態と治療,大動脈解離性疾患の病態と治療,腎疾患・尿路系疾患・男性生殖器官の病態と治療の知識を得,それぞれについて理解できるようにする。										
学修者への期待等	各講義に際し,前,前々回の講義内容について復習小テストをしますので,講義後1~2日目に約30分間復習してきてください。更に,講義内容を良く記憶するように,1及び2週間後に各講義内容を約30分間復習してください。										
回	授業計画				準備学修						
1	配布資料を用いて口腔・頸部疾患の病態と治療法を学ぶ。 2クラスの対面講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に1の講義内容を約30分間復習して下さい。						
2	配布資料を用いて甲状腺・副甲状腺疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に2の講義内容を約30分間復習して下さい。						
3	配布資料を用いて胸壁・縦隔疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に3の講義内容を約30分間復習して下さい。						
4	配布資料をもちいて肺感染症の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に4の講義内容を約30分間復習して下さい。						
5	配布資料を用いて結核,慢性呼吸不全の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に5の講義内容を約30分間復習して下さい。						
6	配布資料を用いて肺悪性腫瘍の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に6の講義内容を約30分間復習して下さい。						
7	配布資料を用いて先天性心疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に7の講義内容を約30分間復習して下さい。						
8	配布資料を用いて心臓弁膜症の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に8の講義内容を約30分間復習して下さい。						
9	配布資料を用いて虚血性心疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に9の講義内容を約30分間復習して下さい。						
10	配布資料を用いて不整脈の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に10の講義内容を約30分間復習して下さい。						
11	配布資料を用いて心不全の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に11の講義内容を約30分間復習して下さい。						
12	配布資料を用いて高血圧症の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に12の講義内容を約30分間復習して下さい。						
13	配布資料を用いて真性大動脈瘤の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に13の講義内容を約30分間復習して下さい。						
14	配布資料を用いて大動脈解離性疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に14の講義内容を約30分間復習して下さい。						
15	配布資料を用いて腎臓,尿路疾患,男性生殖器官の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1~2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に15の講義内容を約30分間復習して下さい。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器」浅野浩一郎他著,医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器」松田直樹他著,医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝」黒江ゆり子他著,医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器」小松浩子著,医学書院										
参考文献	「標準外科学」北島政樹監修,医学書院										
備考	講義内容の習得を授業以外でも行わせ,小テストを講義中に施行し,講義内容の理解と習得の確認を授業中に行う。										
※以下は該当者のみ記載する。											
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)											
医師としての臨床経験を生かして,医学的な内容を理解させる。											

学修成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●									
科目名	病態治療学Ⅱ					単位認定者	田林 暁一		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	受講態度		20 %	
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
							授業回数	15 回			
授業の概要	外科的疾患に関連する疾患・治療、麻酔について、運動機能障害、身体防御機能障害について理解する。運動機能障害では運動器系疾患の病態生理、診断、治療について学ぶ。身体防御機能障害に関しては、血液・免疫・感染疾患に関する病態生理、診断、治療について学ぶ。										
到達目標	運動および身体防御機能障害に関係する腫瘍の基礎的発生病態、外科的治療を主とした基本的治療法の知識を得た後、免疫学の基礎と疾患、脳・脊髄神経疾患、麻酔法・移植、骨疾患、関節疾患、内分泌系・リンパ系疾患、血液疾患、出血・止血の知識を得、それぞれについて理解できるようになる。										
学修者への期待等	各講義に際し、前、前々回の講義内容について復習小テストをしますので、講義後1～2日目に約30分間復習してきてください。更に、講義内容を良く記憶するように、1及び2週間後に各講義内容を約30分間復習してきてください。										
回	授業計画					準備学修					
1	配布資料を用いて腫瘍学(発生、危険因子)について学ぶ。 2クラスの対面講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に1の講義内容を約30分間復習して下さい。					
2	配布資料を用いて腫瘍学(病態)について学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に2の講義内容を約30分間復習して下さい。					
3	配布資料を用いて腫瘍(疫学)について学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に3の講義内容を約30分間復習して下さい。					
4	配布資料を用いて腫瘍学(外科的治療を主とした基本的治療法)について学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に4の講義内容を約30分間復習して下さい。					
5	配布資料を用いて免疫学(自然免疫、獲得免疫、アレルギー)について学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に5の講義内容を約30分間復習して下さい。					
6	配布資料を用いて免疫学(自己免疫疾患)について学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に6の講義内容を約30分間復習して下さい。					
7	配布資料を用いて免疫学(免疫と老化)について学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に7の講義内容を約30分間復習して下さい。					
8	配布資料を用いて脳・脊髄疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に8の講義内容を約30分間復習して下さい。					
9	配布資料を用いて麻酔法、および移植について学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に9の講義内容を約30分間復習して下さい。					
10	配布資料を用いて骨疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に10の講義内容を約30分間復習して下さい。					
11	配布資料を用いて関節疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に11の講義内容を約30分間復習して下さい。					
12	配布資料を用いて上下肢疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に12の講義内容を約30分間復習して下さい。					
13	配布資料を用いて内分泌系疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に13の講義内容を約30分間復習して下さい。					
14	配布資料を用いて出血・止血の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に14の講義内容を約30分間復習して下さい。					
15	配布資料を用いて血液疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義					講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に15の講義内容を約30分間復習して下さい。					
教科書	「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」矢永勝彦他編、医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」北島政樹他編、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器」田中栄他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4]血液・造血器」飯野京子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症」岩田健太郎他著、医学書院										
参考文献	「標準外科学」北島政樹監修、医学書院										
備考	講義内容の習得を授業以外でも行わせ、小テストを講義中に施行し、講義内容の理解と習得の確認を授業中に行う										
※以下は該当者のみ記載する。											
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)											
医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。											

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●								
科目名	病態治療学Ⅲ				単位 認定者	田林 暁一	評価の 方法	試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数		1 単位	受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業時間数		30 時間		
						授業回数	15 回			
授業の概要	内部環境調節障害, 消化・吸収機能障害, 脳・神経機能障害について理解する。内部環境調節障害では甲状腺機能障害・乳腺疾患・副腎機能障害・糖尿病・痛風等の内分泌・代謝系疾患の病態生理, 診断, 治療について理解する。消化・吸収機能障害では消化性潰瘍・消化器癌・炎症性疾患・肝硬変・胆石症・イレウス等の病態生理, 診断と治療について学ぶ。また, 脳・神経機能障害では, 脳血管障害・変異性及び炎症性疾患・頭部外傷・脳腫瘍等, 診断と治療について学ぶ。									
到達目標	脳疾患と甲状腺機能関連知識、脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷の病態と治療の知識、副腎機能障害を含めた肥満の知識、糖尿病・痛風の病態と治療の知識、消化器疾患の病態と治療の知識を得、それぞれについて理解できるようになる。									
学修者への期待等	各講義に際し、前、前々回の講義内容について復習小テストをしますので、講義後1～2日目に約30分間復習してきてください。更に、講義内容を良く記憶するように、1及び2週間後に各講義内容を約30分間復習してきてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	配布資料を用いて、脳疾患と甲状腺機能障害の病態と治療法を学ぶ。 2クラスの対面講義を行う。				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に1の講義内容を約30分間復習して下さい。					
2	配布資料を用いて脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に2の講義内容を約30分間復習して下さい。					
3	配布資料を用いて副腎機能障害、肥満の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に3の講義内容を約30分間復習して下さい。					
4	配布資料を用いて糖尿病の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に4の講義内容を約30分間復習して下さい。					
5	配布資料を用いて動脈硬化症、痛風の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に5の講義内容を約30分間復習して下さい。					
6	配布資料を用いて乳腺疾患の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に6の講義内容を約30分間復習して下さい。					
7	配布資料を用いて消化器疾患(胆道系)の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に7の講義内容を約30分間復習して下さい。					
8	配布資料を用いて消化器系疾患(肝臓)の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に8の講義内容を約30分間復習して下さい。					
9	配布資料を用いて消化器系疾患(膵臓)の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に9の講義内容を約30分間復習して下さい。					
10	配布資料を用いて消化器系疾患(食道)の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に10の講義内容を約30分間復習して下さい。					
11	配布資料を用いて消化器系疾患(胃、十二指腸)の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に11の講義内容を約30分間復習して下さい。					
12	配布資料を用いて消化器系疾患(小腸)の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に12の講義内容を約30分間復習して下さい。					
13	配布資料を用いて消化器系疾患(大腸)の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 2クラスの対面講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に13の講義内容を約30分間復習して下さい。					
14	配布資料を用いて消化器系疾患(直腸・肛門)の病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に14の講義内容を約30分間復習して下さい。					
15	配布資料を用いてヘルニアの病態と治療法を学ぶ。反転授業を行う。 遠隔講義				講義後1～2日目に約30分間復習してください。1週間後と2週間後に15の講義内容を約30分間復習して下さい。					
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器」南川雅子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝」黒江ゆり子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経」井手隆文他著、医学書院									
参考文献	「標準外科学」北島政樹監修、医学書院									
備考	講義内容の習得を授業以外でも行わせ、小テストを講義中に施行し、講義内容の理解と習得の確認を授業中に行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
医師としての臨床経験を生かして、医学的な内容を理解させる。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-BNS-03			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床看護総論				単位認定者	伊藤 てる子		試験(レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	医療において臨床とは、医療を求める人に対して医療行為を行う場である。臨床看護総論は、臨床看護の場、対象(家族も含む)、健康状態の経過からみた特徴と看護、主要な症状を示す対象者への看護、治療や処置を受ける患者の看護、臨床の場で多く使用される医療機器の原理と取り扱いについて学ぶ。								
到達目標	1.健康障害の経過や主要な症状、および治療・処置の基本的知識をふまえ、臨床において看護の対象となる人々の特徴を説明することができる 2.健康障害の経過、主要な症状、治療・処置の基本的知識に基づき、対象のニーズを理解し、必要とされる看護援助にはどのようなものがあるか述べることができる								
学修者への期待等	臨床看護の対象となる患者・家族に看護師としての関心を持ち、健康障害の経過や症状、治療によってどのような問題を抱え、どのような支援が必要となるのかを考察する科目となる。予習をして疑問点を明らかにして、授業に臨んでほしい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	授業ガイダンス 健康上のニーズを持つ対象者と家族				教科書の第1章「健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
2	健康障害のレベルとしての経過 健康状態の経過に基づく看護1: 急性期における看護				教科書の第2章C「急性期における看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
3	健康状態の経過に基づく看護2: リハビリテーション期、慢性期における看護				教科書の第2章D「慢性期における看護」とE「リハビリテーション期における看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
4	主要な症状を示す対象者の看護1: 呼吸機能障害、循環機能障害				教科書の第3章A「呼吸に関連する症状を示す対象者への看護」とB「循環に関連する症状を示す対象者への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
5	主要な症状を示す対象者の看護2: 栄養・代謝障害、排泄機能障害				教科書の第3章C「栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護」とD「排泄に関連する症状を示す対象者への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
6	主要な症状を示す対象者の看護3: 身体的不活動、休息・睡眠障害、認知・知覚障害				教科書の第3章E「活動と休息に関連する症状を示す対象者への看護」と第3章F「認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
7	主要な症状を示す対象者の看護4: ストレスとコーピング				教科書のG「コーピングに関連する症状を示す対象者への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
8	主要な症状を示す対象者の看護5: 安全や生体防御、安楽障害				教科書の第3章H「安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護」とI「安楽に関連する症状を示す対象者への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
9	治療・処置を受ける患者の看護1: 輸液療法、化学療法、放射線療法				教科書の第4章A「輸液療法を受ける対象者への看護」とB「化学療法を受ける対象者への看護」及びC「放射線療法を受ける対象者への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
10	治療・処置を受ける患者の看護2: 手術療法、集中治療				教科書の第4章D「手術療法を受ける対象者への看護」とE「集中治療を受ける対象者への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
11	治療・処置を受ける患者の看護3: 創傷処置、身体侵襲を伴う検査				教科書の第4章F「創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護」とG「身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
12	健康状態の経過に基づく看護3: 終末期における看護				教科書の第2章F「終末期における看護」を読み予習する。(1時間程度)			伊藤 てる子	
13	医療機器の原理と取り扱い方法				授業内で提示する			相澤 康弘 伊藤 てる子	
14	医療機器の原理と取り扱い方法の実際							相澤 康弘 伊藤 てる子	
15	臨床看護総論まとめ							伊藤 てる子	
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論」香春知永他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器」川村雅文他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器」吉田俊子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器」松田明子他著、医学書院								
参考文献	特になし								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の経験を活かした講義を行うことにより、学生が具体的な臨床看護について理解が深まることを目指す。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-BNS-06				
●	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位認定者	竹田 理恵 佐藤 由記子		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		技術試験	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		授業内課題	40 %
						授業回数	15 回		受講態度	10 %
授業の概要	フィジカルアセスメントとして、問診・視診、触診、聴診、打診の基本技術やバイタルサイン測定と評価、呼吸音・心音・腸音の聴取方法について学ぶ。診療援助技術として、呼吸・循環を整える技術を学ぶ。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を身につける。									
到達目標	フィジカルアセスメントを正確に実施する基礎的な方法を修得する ・健康な対象のバイタルサインを正しく測定しアセスメントできる ・健康な対象の生命の維持にかかわる臓器のフィジカルイグザミネーションを実施できる （原則的な視診の考え方、心音の聴取、呼吸音の聴取、腸蠕動音の聴取、対光反射の確認、打診の方法） ・健康な対象の体を動かすことにかかわるフィジカルイグザミネーションの方法を理解できる（MMT、ROM） ・呼吸・循環調整管理の方法を理解できる									
学修者への期待等	前期に履修している「人体の構造と機能」について復習をしておくこと									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】ヘルスアセスメント				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅰ」の第2章「ヘルスアセスメント」を読む（1時間）			佐藤 由記子		
2	【講義】フィジカルアセスメント－バイタルサインの観察とアセスメント－				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅰ」の第2章「ヘルスアセスメント」の該当箇所を読む（1時間）			佐藤 由記子		
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の使い方：実技、グループワーク				【事前】ワークシートを用いて手順や実施上の留意点等を予習する（1時間） 【事後】演習後の課題に取り組む。演習で学んだ内容をワークシートにまとめて提出する（1時間）			佐藤 由記子 竹田 理恵 菅原 尚美 佐藤 清湖 非常勤講師		
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループワーク							竹田 理恵 佐藤 由記子 菅原 尚美 佐藤 清湖 非常勤講師		
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定：実技、グループワーク				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅰ」の第2章「ヘルスアセスメント」の該当箇所を読む（1時間）			竹田 理恵		
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の技術実施、アセスメント：実技、グループワーク							竹田 理恵		
7	【講義】フィジカルアセスメント－系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”－				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅰ」の第2章「ヘルスアセスメント」の該当箇所を読む（1時間）			佐藤 由記子		
8	【講義】フィジカルアセスメント－系統別フィジカルアセスメント“循環器”－							菅原 尚美		
9	【講義】フィジカルアセスメント－系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”－							竹田 理恵		
10	【講義】フィジカルアセスメント－系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経系”－							佐藤 由記子		
11	フィジカルアセスメント① 呼吸器系、循環器系：実技、グループワーク				【事前】ワークシートを用いて手順や実施上の留意点等を予習する（1時間） 【事後】演習後の課題に取り組む。演習で学んだ内容をワークシートにまとめて提出する（1時間）			竹田 理恵 佐藤 由記子 菅原 尚美 佐藤 清湖 非常勤講師		
12	フィジカルアセスメント② 腹部、筋・骨格系、感覚器、神経系：実技、グループワーク							佐藤 由記子 菅原 尚美 竹田 理恵 佐藤 清湖 非常勤講師		
13	【講義】呼吸・循環を整える技術－体温管理の技術、電法、末梢循環促進ケア－				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第7章「呼吸・循環を整える技術」を読む（1時間）			佐藤 清湖 竹田 理恵		
14	【講義】呼吸・循環を整える技術－酸素吸入療法、排痰ケア－							竹田 理恵		
15	呼吸・循環を整える技術－酸素療法、口腔・鼻腔内吸引：実技、グループワーク				【事前】ワークシートを用いて手順や実施上の留意点等を予習する（1時間） 【事後】演習後の課題に取り組む。演習で学んだ内容をワークシートにまとめて提出する（1時間）			竹田 理恵 佐藤 清湖 佐藤 由記子 非常勤講師		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」有田清子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」有田清子他著、医学書院									
参考文献	「看護がみえる vol.1 基礎看護技術」医療情報科学研究所、メディックメディア 「看護がみえる vol.2 臨床看護技術」医療情報科学研究所、メディックメディア 「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」医療情報科学研究所、メディックメディア 「はじめてのフィジカルアセスメント」横山美樹著、メヂカルフレンド社 「ナースング・スキル日本版」エルゼビア・ジャパン株式会社									
備考	＊非常勤講師：高栖 希美子、菅野 郁美、小島 未奈美 ＊対面演習は3→4回を除いてA・Bの2クラス編成で行います。 ＊各技術項目の修得レベルは「卒業時の技術到達度」参照。 ＊授業内課題については授業内で総括しフィードバックします。 ＊この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須です。									
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）										
教員全員が看護師としての実務経験を持つ。基礎看護技術の臨床現場での活用例を交えた授業を行う。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-BNS-07					
	●	●	●	●	●						
科目名	基礎看護技術IV				単位認定者	菅原 尚美 佐藤 由記子 竹田 理恵		試験(筆記)	60	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	課題	40	%
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間		
						授業回数	30 回				
授業の概要	診療援助技術として、与薬の技術、創傷管理技術、排泄異常時の援助技術について学ぶ。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を身につける。										
到達目標	1. 診療の補助技術としての感染防止の技術、与薬の技術、創傷管理技術、症状・生体管理技術、排泄異常時の援助技術に関する基本的知識について述べるができる。 2. 感染防止の技術、与薬の技術、創傷管理技術、症状・生体管理技術、排泄異常時の援助技術の原理・原則を理解し、 正確かつ安全に実施する方法がわかる										
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体の構造と機能、病態治療学、看護薬理学などの知識も必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が重要です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学習・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。 演習を行う場合は、学生同士で身だしなみを確認する。 安全で効果的な演習とするために、規律性・協調性などのチームワーク力を発揮して行動しましょう。										
回	授業計画				準備学修			担当			
1	【講義】診療援助技術とは何か／感染防止の技術－洗淨・消毒・滅菌、無菌操作、針刺し防止策－				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第13章「感染防止の技術」を読む(1時間)			菅原 尚美			
2	感染防止の技術「無菌操作(滅菌物、滅菌手袋、滅菌ガウン)」：実技				【事前】ワークシート、教科書等で手順・留意点を予習・復習する(1時間) 【事後】ワークシート、教科書等で学習内容を復習する。ワークシートを提出する(1時間)			菅原 尚美 佐藤 由記子			
3	感染防止の技術「个人防护用具(手袋・マスク・ガウン)の着用・外し方」：実技							佐藤 清湖 非常勤講師			
4	【講義】与薬の技術－与薬の基礎知識、経口与薬－				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第9章「与薬の技術」の該当箇所を読む(1時間)			竹田 理恵			
5	【講義】与薬の技術－吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬－										
6	【講義】与薬の技術－注射の基礎知識－				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第9章「与薬の技術」の該当箇所を読む(1時間)			佐藤 清湖			
7	注射の準備「注射針と注射筒の接続」：実技				【事前】ワークシート、教科書等で手順・留意点を予習・復習する(1時間) 【事後】教科書等で学習内容を復習し、ワークシートを提出する(1時間)			佐藤 清湖 菅原 尚美 佐藤 由記子			
8	注射の準備「薬液の吸い上げ」：実技							竹田 理恵 非常勤講師			
9	【講義】与薬の技術－注射の実施法(皮下注射・皮内注射・筋肉内注射)－				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第9章「与薬の技術」を読む(1時間)			佐藤 清湖			
10	注射「筋肉内注射の準備、注射部位の選定」：実技、グループワーク				【事前】ワークシート、教科書等で手順・留意点を予習・復習する(1時間) 【事後】教科書等で学習内容を復習し、ワークシートを提出する(1時間)			佐藤 清湖 菅原 尚美			
11	注射「筋肉内注射の実施(シミュレーター)」：実技							佐藤 由記子 非常勤講師			
12	【講義】症状・生体機能管理技術－血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖測定)－				【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第11章「症状・生体機能管理技術」の該当箇所を読む(1時間)			菅原 尚美			

回	授業計画	準備学修	担当
13	血液検査「静脈血採血の実際」：実技、グループワーク	【事前】ワークシート、教科書等で手順・留意点を予習・復習する（1時間） 【事後】ワークシート、教科書等で学習内容を復習する（1時間）	菅原 尚美 佐藤 由記子 竹田 理恵 佐藤 清湖 非常勤講師
14	血液検査「真空採血管を用いた採血（シミュレーター）」：実技、グループワーク		
15	【講義】与薬の技術－静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射）－	【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第9章「与薬の技術」を読む（1時間）	佐藤 由記子
16	与薬の技術「点滴静脈内注射の準備、管理」：実技	【事前】ワークシート、教科書等で手順・留意点を予習・復習する（1時間） 【事後】教科書等で学習内容を復習し、ワークシートを提出する（1時間）	佐藤 由記子 菅原 尚美 佐藤 清湖 非常勤講師
17	与薬の技術「輸液速度の調整（自然滴下、輸液ポンプ）」：実技		
18	【講義】与薬の技術－中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理－	【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第9章「与薬の技術」を読む（1時間）	佐藤 清湖
19	【講義】症状・生体機能管理技術－検体検査（尿・便・喀痰検査）、生体情報のモニタリング（心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター）－	【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第11章「症状・生体機能管理技術」を読む（1時間）	竹田 理恵
20	【講義】診察の介助、検査・処置の介助	【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第12章「診察・検査・処置の介助技術」を読む（1時間）	佐藤 清湖
21	【講義】自然な排泄ができない場合の医療上の処置「導尿、浣腸、摘便」	【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第3章「排泄援助技術」を読む（1時間）	竹田 理恵
22	排泄援助技術「浣腸、摘便」：実技	【事前】ワークシート、教科書等で手順・留意点を予習・復習する（1時間） 【事後】教科書等で学習内容を復習し、ワークシートを提出する（1時間）	竹田 理恵 菅原 尚美 佐藤 清湖 非常勤講師
23	排泄援助技術「持続的導尿」：実技		
24	【講義】創傷管理技術－創傷管理、創傷処置－	【事前】教科書「基礎看護技術Ⅱ」の第8章「創傷管理技術」の該当箇所を読む（1時間）	佐藤 由記子
25	【講義】創傷管理技術－褥瘡予防－		
26	創傷管理の技術「創傷の観察と創処置」：実技	【事前】ワークシート、教科書等で手順・留意点を予習・復習する（1時間） 【事後】教科書等で学習内容を復習し、ワークシートを提出する（1時間）	佐藤 由記子 菅原 尚美 佐藤 清湖 非常勤講師
27	褥瘡予防の技術「体圧分散、体位変換」：実技		
28	紙上事例の展開「安全・感染防止の技術に基づく診療援助技術の実際」：実技、グループワーク	【事前】紙上事例に基づき技術練習を行い、プレゼンテーションの準備をする（3時間）	菅原 尚美 佐藤 由記子 竹田 理恵 佐藤 清湖 非常勤講師
29	紙上事例の展開「安全・感染防止の技術に基づく診療援助技術の実際」：実技、グループワーク、ディスカッション		
30	紙上事例の展開「安全・感染防止の技術に基づく診療援助技術の実際」：実技、プレゼンテーション		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」有田清子他著、医学書院		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護がみえるvol.①基礎看護技術」医療情報科学研究所、メディック・メディア ・「看護がみえるvol.②臨床看護技術」医療情報科学研究所、メディック・メディア ・「ナーシング・スキル日本版」エルゼビア・ジャパン株式会社 ＊その他の参考文献については、授業の中で必要時提示する		
備考	＊非常勤講師：高栖希美子、菅野郁美、小島未奈美 ＊演習は、半クラス（A・B）編成で行う ＊事前・事後課題は評価し、後日返却する		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

本科目は、看護師の資格を有する教員が、臨床経験をいかして、感染防止の技術、与薬の技術、創傷管理技術、症状・生体管理技術、排泄異常時の援助技術について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-BNS-08			
	●	●	●	●	●				
科目名	看護過程論				単位 認定者	伊藤 てる子		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
							授業回数		15 回
授業の概要	看護実践に必要な看護過程の基本的事項や構成要素について学ぶ。更に健康障害を持つ対象の紙上事例を通して、看護過程の展開方法について学ぶ。								
到達目標	1. 看護過程の意義や目的を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 看護過程の各段階を理解し、述べるができる。 3. 看護過程を展開する具体的な方法を理解し、実施できる。								
学修者への 期待等	看護過程は、対象に適切な看護援助を提供するための基本となる問題解決方法論である。看護職を目指す学生にとって臨地実習で実際に展開できることが求められる。一人一人が確実に科学的で論理的な思考プロセスを修得するために、授業で提示された課題を実施、予習して授業に臨むことを期待する。								
回	授業計画				準備学修				
1	授業ガイダンス 看護過程（構成要素、構成要素の関係性） 看護過程の基盤となる考え方				教科書『基礎看護技術Ⅰ』第3章A「看護過程とは」、B「看護過程の基盤となる考え方」を読み予習する。（30分程度）				
2	アセスメント（情報の収集）				教科書『基礎看護技術Ⅰ』第3章C「看護過程の各段階①アセスメント」を読み予習する。（1時間程度）				
3	アセスメント（情報の解釈・分析）				教科書『基礎看護技術Ⅰ』第3章C「看護過程の各段階①アセスメント」を読み予習する。（1時間程度）				
4	ゴードンの看護診断の概念枠組み 機能的健康パターンに基づくアセスメント				教科書『ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント』の「V. ゴードンの考えによる看護の展開」を読み予習する。（1.5時間程度）				
5	看護診断（看護問題の明確化）				教科書『基礎看護技術Ⅰ』第3章C「看護過程の各段階②看護問題の明確化（看護診断）」と『ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント』の「Ⅲ. 看護診断」を読み予習する。（1時間程度）				
6	事例紹介 データベース								
7	情報収集と分析、アセスメント、看護診断の実際1：健康知覚-健康管理パターン				提示された事例で、「健康知覚-健康管理パターン」の情報を記載して、できる範囲で分析・解釈を記載する。（1.5時間程度）				
8	情報収集と分析、アセスメント、看護診断の実際2：排泄パターン				提示された事例で、「排泄パターン」の情報を記載して、できる範囲で分析・解釈を記載する。（1.5時間程度）				
9	情報収集と分析、アセスメント、看護診断の実際3：活動-運動パターン				提示された事例で、「活動-運動パターン」の情報を記載して、できる範囲で分析・解釈を記載する。（1.5時間程度）				
10	情報収集と分析、アセスメント、看護診断の実際4：コーピング-ストレス耐性パターン				提示された事例で、「コーピング-ストレス耐性パターン」の情報を記載して、できる範囲で分析・解釈を記載する。（1.5時間程度）				
11	看護問題の優先順位、全体像のまとめ方				教科書『基礎看護技術Ⅰ』第3章C「看護過程の各段階⑤看護問題の優先順位」を読み予習する。（30分程度）				
12	看護計画（目標の立て方、具体策の策定）				教科書『基礎看護技術Ⅰ』第3章C「看護過程の各段階③看護計画」を読み予習する。（1時間程度）				
13	看護計画の実際				提示された事例の看護計画を立案して記載する。（2時間程度）				
14	看護介入の実施、評価、経過記録				教科書『基礎看護技術Ⅰ』第3章C「看護過程の各段階④実施⑤評価」D「看護記録③看護記録の構成」を読み予習する。（1時間程度）				
15	看護過程のまとめ								
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」有田清子他著、医学書院 「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント」渡邊トシ子編、ヌーヴェルヒロカワ								
参考文献	「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」江川隆子編集、ヌーヴェルヒロカワ 「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン」マージョリー・ゴードン（江川隆子訳）照林社 「実践に役立つ看護過程と看護診断—ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開—」三上れつ著、ヌーヴェルヒロカワ								
備考	※授業には、学生個人がしっかりと事前・事後課題をして臨むこと。 ※基礎看護学実習Ⅱの履修要件として看護学原論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程論、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることが必須である。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護師としての経験を活かした講義や演習を行うことにより、学生が事例について具体的にイメージができ「看護過程の展開」の重要性を理解することを目指している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HCU-02				
				●						
科目名	英語Ⅱ				単位認定者	二口 尚美		授業内課題 (小テスト)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	最終提出課題	20 %
							授業時間数		20 時間	受講態度 (学籍カード)
				授業形態	講義	授業回数			10 回	受講態度 (プレゼン課題)
授業の概要	医療英語のみならず、一般的な英語に関する語彙、英語表現の習得・英文講読力を養い、英語の文献を読めるような基礎づくりをする。									
到達目標	医療についての英語の基礎的な語彙、フレーズを理解する。 文法構造を思い出しながら、与えられた英文を理解することができる。 ニュース記事、看護事例、医療・看護に関わるTedのプレゼンテーションに興味を持ち、自分で取り組んだ翻訳を提出できる。英語圏の医療事情を日本と比較しながら理解できる。									
学修者への期待等	テキスト、辞書、ノートを用意すること。Listening、Speaking、Writing Reading課題及びグループワークに積極的に参加すること。提出物については第1回で説明を行う。小テスト (授業内課題) はLMSで実施する。									
回	授業計画				準備学修					
1	【対面】Unit1: What Worries Barbara?を読んで理解する 命令文 履歴書の書き方 実技 listening, speaking, readingを行う LMSによる授業内課題と提出物について説明する				事前【小テスト】Unit1のmedical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
2	【遠隔】Unit2: That's Mama's Hair!を読んで理解する be動詞 have動詞 測定単位の違い 実技 listening, speaking, readingを行う (Ted、Tedxの理解、もしくは借用図書の説明)				事前【小テスト】Unit2の medical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
3	【遠隔】Unit3: Menstrual Problemsを読んで理解する 現代分詞 形容詞的用法 実技 listening, speaking, readingを行う (Ted、Tedxの理解、借用図書の説明)				事前【小テスト】Unit3の medical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
4	【遠隔】Unit5: How to Give First Aidを読んで理解する 加算名詞と不可算名詞 実技 listening, speaking, readingを行う (Ted、Tedxの理解、借用図書の説明)				事前【小テスト】Unit4、5のmedical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
5	【遠隔】Unit6: Make a Restroom More Accessible to LGBT Peopleを読んで理解する 動詞 副詞 前置詞の組み合わせによる慣用句 実技 listening, speaking, readingを行う (Ted、Tedxの理解、借用図書の説明)				事前【小テスト】Unit6、7の medical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
6	【遠隔】Unit7: Are You Being Abused?を読んで理解する 動詞、副詞、前置詞の組み合わせによる慣用句 実技 listening, speaking, readingを行う (Ted、Tedxの理解、借用図書の説明)				事前【小テスト】Unit7、8の medical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
7	【遠隔】Unit8: Giving Bloodを読んで理解する 関係代名詞 実技 listening, speaking, readingを行う (Ted、Tedxの理解、借用図書の説明)				事前【小テスト】Unit9、10の medical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
8	【遠隔】Unit9: Living a Healthy Life Unit10: Is the Treatment Different or Not?を読んで理解する SVCとSVOC、関係代名詞 実技 listening, speaking, readingを行う (Ted、Tedxの理解、借用図書の説明)				事前【小テスト】Unit11のmedical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
9	【遠隔】Unit11: Is Hepatitis B Curable? Unit12: Do you want to be skinny?を読んで理解する Thatの用法 時制 実技 listening, speaking, readingを行う (海外の医療・看護事情)				事前【小テスト】Unit13、14 のmedical wordsを覚える Ted、Tedxを視聴しておく 事後 図書館で英語の書籍を借り 紹介の準備					
10	【遠隔】Unit14: Foreign Nurses Struggle for the Japanese Languageを読んで理解する 前置詞 受動態 実技 listening, speaking, readingを行う (Ted、Tedxの理解、借用図書の説明)				事後 原著論文訳または保健健康看護に関する英字新聞記事を翻訳して提出する。(提出物)					
教科書	「医療と看護の総合英語 (三訂版)」 山崎朝子・笹島茂著、三修社									
参考文献	英和辞典(使い慣れたものでよい) ほか、講義内で、参考となるサイトやリストを提示します。									
備考	テキスト、辞書 (書籍でもデジタル辞書でも可) を用意してください。 図書館借用英語書籍については、初回講義時に説明しますが図書館利用が難しい場合、もしくは皆さんの興味によりTes(x)を活用します。 学籍カード未記載は一部減点の対象・未提出は欠席扱いとなる場合があります。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-FSF-04		
●	●		●					
科目名	課題探究ゼミナールⅡ				単位認定者	阿部 幹佳 二口 尚美		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	評価の方法	計画書	20 %
					授業形態		演習	プレゼンテーション
								ポートフォリオ
							相互評価	10 %
授業の概要	課題探究ゼミナールⅠを基礎として、プロジェクト（目標を達成する構想）学習などを取り入れながら、課題解決力やクリティカルシンキングを身につけ、自ら学べる力を養う。提示された課題をプロジェクト学習の手法を用いて学習する。自分自身を客観視し、次なる課題を発見することで自己肯定感や自己成長を実感することを体験し、『与えられた学びから、意志ある学び』ができる力を身につける。							
到達目標	1. 「なりたい自分」を探求、まとめるための計画書を具体的に記述できる 2. グループで協力をし、計画書に沿って調査したことを踏まえ、深い考察や意味付けがされたPowerPointを作成できる 3. 作成したPowerPointを活かし、丁寧に説明し、熱意が伝わるプレゼンテーションができる 4. 授業を通しポートフォリオをまとめることができる							
学修者への期待等	1. 課題探究ゼミナールⅠを基礎にしています 2. 「10年後のなりたい自分」について、信頼性のある情報に基づき、具体的な課題解決策を考えましょう 3. グループワークは自己の「問い」を深め、具体的で実践的な調査計画、課題解決策を見出す機会として活用しましょう							
回	授業計画			準備学修			担当	
1	ガイダンス →プロジェクト学修の考え方と流れ 自己の問いを見つける (テーマ: 「なりたい自分になる」)			【事前】1時間 課題探究ゼミナールⅠの資料「プロジェクト学習とポートフォリオの基本」を見直す テキスト「学びの技」P1～12までを読む (目標設定の技)			阿部 幹佳 二口 尚美	
2	【実技: ワールドカフェ】問いを育てる ビジョンとゴール設定をする 課題提出はLMSを利用予定			【事前】1時間 テーマについて関心のある事柄を書いてくる 【事後】2時間 テキスト「学びの技」P14～28までを読む (論題設定の技) 個人の「問い」を決め報告する			阿部 幹佳 二口 尚美	
3	対面 (601講義室と言語・情報室) →学生希望により遠隔でも可とする 【実技: グループワーク】 チーム編成をする 計画書の作成 (ゴール達成への戦略を考え 計画書表をつくる) グループワークへの質疑はLMSを利用予定			【事前】1時間 個人の課題 (強みと弱み、興味、関心) を 明確にする テキスト「学びの技」P30～62までを読む (情報収集の技) 【事後】3時間 テキスト「学びの技」P64～78までを読む (情報整理の技) 計画書を提出する			阿部 幹佳 二口 尚美	
4	対面 (601講義室と言語・情報室) →学生希望により遠隔でも可とする 【実技: グループワーク】 計画に沿った活動・情報収集と報告 グループワークの進捗報告はLMSを利用予定			【事前】1時間 テキスト「学びの技」P80～92までを読む (論理的に考える技) 【事後】3時間 計画に沿って、根拠のある情報を能動的に 獲得・活動する グループワークの進捗を教員へ報告する			阿部 幹佳 二口 尚美	
5	対面 (601講義室と言語・情報室) →学生希望により遠隔でも可とする 【実技: グループワーク】 プレゼンテーションのための発表資料制作 グループワークへの質疑はLMSを利用予定			【事前】1時間 手に入れた情報を俯瞰し分析的に考える テキスト「学びの技」P94～112までを読む (発表の技) 【事後】3時間 手に入れた情報を整理しまとめる			阿部 幹佳 二口 尚美	
6	遠隔 【実技: プレゼンテーション】①前半 成果発表/他グループの成果確認 (相互評価)			【事前】3時間 プレゼンテーションのための発表資料制作			阿部 幹佳 二口 尚美	
7	遠隔 【実技: プレゼンテーション】②後半 成果発表/他グループの成果確認 (相互評価)						阿部 幹佳 二口 尚美	
8	遠隔 成長確認			【事前】1時間 テキスト「学びの技」P114～138までを読む (論文の技) 【事後】1時間 成果物としてポートフォリオをまとめ提出 する 個人の「問い」に関するレポートを作成し 提出する			阿部 幹佳 二口 尚美	
教科書	「学びの技 14歳からの探求・論文・プレゼンテーション」後藤芳文・伊藤史織・登本洋子著、玉川大学出版部							
参考文献	「課題解決力と論理的思考が身につくプロジェクト学習の基本と手法」鈴木敏恵著、教育出版 (課題探究ゼミナールⅠテキスト) 「問いをつくるスパイラル 考えることから探究学習をはじめよう！」日本図書館協会図書館利用教育委員会 図書館利用教育ハンドブック学校図書館 (高等学校) 版作業部会編著、日本図書館協会							
備考	LMSの感想・意見・質問カードへの記載で出席を確認します 授業時もLMSを使用することがありますので、スマートフォンなどに学内Wi-Fi設定をしておいてください							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-16			
	●	●	●	●	●				
科目名	母性看護学援助論Ⅱ				単位 認定者	坂村 佐藤	佐知 理恵	確認テスト 60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課題 30 %
							授業時間数		45 時間
				授業形態	演習	授業回数			23 回
授業の概要	妊娠・分娩・産褥・新生児各期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、看護に必要な健康状態のアセスメントの視点を学ぶ。家族をふまえた対象者のニーズに対して、適切な看護支援が実施できるように基本的知識・技術を習得する。また、看護の対象者の健康状態の促進やセルフケア能力を考え、ウェルネス志向で看護過程が展開できる方法を学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の正常な経過が理解できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を学び、その看護について理解できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦のセルフケア能力が維持・促進できる看護支援について理解できる。 4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の看護支援方法が理解できる。 								
学修者への期待等	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰで学んだことを復習して授業に臨み、母子双方からの視点で捉えることができるように学修を深めて欲しい。また、母性看護学特有の看護援助技術について、積極的に学修する姿勢で臨むことを期待する。								
回	授業計画					準備学修		担当	
1	授業ガイダンス 【遠隔授業】妊娠期の看護① 妊婦と胎児のアセスメント					【事前】妊娠の成立・正常経過を復習して授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
2	【遠隔授業】妊娠期の看護② 妊婦とその家族への看護					【事前】妊娠の身体的変化を復習して授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
3	【遠隔授業】妊娠期の看護③ 妊娠期の異常と看護のポイント (妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、 妊娠糖尿病、切迫流産、妊娠貧血他)					【事前】妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の病態生理をレポートにまとめて授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
4	【遠隔授業】分娩期の看護① 分娩第1～4期の産婦と胎児のアセスメント					【事前】正常な分娩経過を復習して授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
5	【オンライン・遠隔授業】分娩期の看護② 産婦とその家族への看護							坂村 佐知 佐藤 理恵	
6	【遠隔授業】分娩期の看護③ 分娩期の異常と看護のポイント (分娩3要素に関する異常、異常出血、産科処置・手術、胎児機能不全他)					【事前】前置胎盤・常位胎盤早期剥離の病態生理をレポートにまとめて授業に臨む (概ね1時間)		坂村 佐知	
7	妊婦・産婦の看護にかかわる実技 A: レオポルド触診法、胎児心拍聴取、妊婦体験、 妊婦体操 B: 妊娠経過表作成					ABクラス分けで実施 【事前】レオポルド触診法・胎児心拍聴取部位を事前学修して演習に臨む (概ね1時間)		坂村 佐知 佐藤 理恵 武田 美奈子 岡崎 草代夏	
8	妊婦・産婦の看護にかかわる実技 A: 妊娠経過表作成 B: レオポルド触診法、胎児心拍聴取、妊婦体験、 妊婦体操					【事後】演習課題レポートを作成する (概ね1時間)		菊地 明子 畑中 晶子	
9	【遠隔授業】産褥期の看護① 褥婦のアセスメント・褥婦のセルフケアを支える看護					【事前】産褥期の身体的変化を復習して授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
10	【オンライン・遠隔授業】産褥期の看護② 母親になることへの看護：母親役割過程、新生児の看護にかかわる技術 (抱き方・寝かせ方、衣類の交換、おむつ交換) の実技					【事前】母性看護技術 (199頁から209頁) を予習してくる (概ね1時間) 【事後】授業で行った実技のポイントを復習する (概ね30分)		佐藤 理恵 坂村 佐知	

回	授業計画	準備学修	担当
11	【遠隔授業】産褥期の看護③ 母乳育児と看護:母乳分泌のメカニズムに基づいた母乳育児支援	【事後】母乳メカニズムについて復習する(概ね1時間)	佐藤 理恵
12	【遠隔授業】産褥期の看護④ 産褥期の異常と看護のポイント(子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産後精神障害、下部尿路障害他)	【事前】子宮復古不全・産褥熱・乳腺炎の病態生理をレポートにまとめて授業に臨む(概ね1時間)	佐藤 理恵
13	【遠隔授業】新生児期の看護① 新生児のアセスメント	【事前】新生児の生理的特徴を復習して授業に臨む(概ね1時間)	坂村 佐知
14	【遠隔授業】新生児期の看護② 出生直後から24時間以内の看護ケア	【事後】新生児の子宮外生活適応過程を復習する(概ね1時間)	坂村 佐知
15	【オンライン・遠隔授業】新生児期の看護③ 早期新生児期の看護ケアの実際	【事後】新生児の観察項目を復習する(概ね1時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵
16	【遠隔授業】新生児期の看護④ 新生児期の異常:ハイリスク新生児の看護のポイント(呼吸障害、循環障害、代謝障害、早産児・低出生体重児他)	【事後】新生児にみられる病態・疾患を復習する(概ね1時間)	坂村 佐知
17	【遠隔授業】特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援 特定妊婦・不妊治療後の妊娠・外国人妊婦の支援・災害時の妊婦の支援・虐待予防	【事前】不妊治療を復習して授業に臨む(概ね1時間)	佐藤 理恵
18	褥婦・新生児の看護にかかわる実技 A:退院に向けての保健指導・沐浴法 B:新生児のフィジカルアセスメント	ABクラス分けて実施 【事前】新生児の観察方法と沐浴法を事前学修して演習に臨む(概ね2時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵 長橋 美栄子 阿部 幹佳 武田 美奈子
19	褥婦・新生児の看護にかかわる実技 A:新生児のフィジカルアセスメント B:退院に向けての保健指導・沐浴法	【事後】演習課題レポートを作成する(概ね1時間)	黒木 雅美 岡崎 草代夏 菊地 明子 畑中 晶子
20	【遠隔授業】看護過程の展開①:母性看護学における看護過程	【事前】看護過程の基本的事項や構成要素を復習して演習に臨む(概ね1時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵
21	【オンライン・遠隔授業】看護過程の展開②:情報収集とアセスメント(グループワーク)	【事前】看護過程アセスメント用紙を完成させて演習に臨む(概ね3時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵
22	【オンライン・遠隔授業】看護過程の展開③:アセスメントの総括・看護診断(グループワーク)	【事後】看護過程の課題を作成する(概ね3時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵
23	【オンライン・遠隔授業】看護過程の展開④:到達目標・看護計画・看護の実施・評価		坂村 佐知 佐藤 理恵
教科書	「ナーシング・グラフィカ 母性看護学(2)母性看護の実践」小林康江他編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 母性看護学(3)母性看護技術」荒木奈緒他編、MCメディカ出版		
参考文献	「病気がみえるvol.10 産科」医療情報科学研究所編、メディックメディア 「ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図」佐世正勝・石村由利子編集、医学書院 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」太田操編著、医歯薬出版 「アセスメントスキルを修得し質の高い周産期ケアを追求する 母性看護学II 周産期各論」有森直子編著、医歯薬出版社		
備考	・詳細な講義スケジュールについては、第1回講義時に説明する。また、講義との調整のため、演習日程が変更となる可能性がある。 ・課題レポートは指定された日時までに提出する。 ・確認テスト(小テスト)を不定期に実施する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

CLoCMiP®レベルⅢ認定アドバンス助産師が、臨床での事例を挙げながら母子そしてその家族へ具体的支援について説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-16			
	●	●	●	●	●				
科目名	母性看護学援助論Ⅱ				単位 認定者	坂村 佐藤	佐知 理恵	確認テスト 60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課題 30 %
							授業時間数		45 時間
				授業形態	演習	授業回数			23 回
授業の概要	妊娠・分娩・産褥・新生児各期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、看護に必要な健康状態のアセスメントの視点を学ぶ。家族をふまえた対象者のニーズに対して、適切な看護支援が実施できるように基本的知識・技術を習得する。また、看護の対象者の健康状態の促進やセルフケア能力を考え、ウェルネス志向で看護過程が展開できる方法を学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の正常な経過が理解できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を学び、その看護について理解できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦のセルフケア能力が維持・促進できる看護支援について理解できる。 4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の看護支援方法が理解できる。 								
学修者への期待等	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰで学んだことを復習して授業に臨み、母子双方からの視点で捉えることができるように学修を深めて欲しい。また、母性看護学特有の看護援助技術について、積極的に学修する姿勢で臨むことを期待する。								
回	授業計画					準備学修		担当	
1	授業ガイダンス 【遠隔授業】妊娠期の看護① 妊婦と胎児のアセスメント					【事前】妊娠の成立・正常経過を復習して授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
2	【遠隔授業】妊娠期の看護② 妊婦とその家族への看護					【事前】妊娠の身体的変化を復習して授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
3	【遠隔授業】妊娠期の看護③ 妊娠期の異常と看護のポイント (妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、 妊娠糖尿病、切迫流産、妊娠貧血他)					【事前】妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の病態生理をレポートにまとめて授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
4	【遠隔授業】分娩期の看護① 分娩第1～4期の産婦と胎児のアセスメント					【事前】正常な分娩経過を復習して授業に臨む (概ね1時間)		坂村 佐知	
5	【オンライン・遠隔授業】分娩期の看護② 産婦とその家族への看護							坂村 佐知 佐藤 理恵	
6	【遠隔授業】分娩期の看護③ 分娩期の異常と看護のポイント (分娩3要素に関する異常、異常出血、産科処置・手術、胎児機能不全他)					【事前】前置胎盤・常位胎盤早期剥離の病態生理をレポートにまとめて授業に臨む (概ね1時間)		坂村 佐知	
7	妊婦・産婦の看護にかかわる実技 A: レオポルド触診法、胎児心拍聴取、妊婦体験、 妊婦体操 B: 妊娠経過表作成					ABクラス分けて実施 【事前】レオポルド触診法・胎児心拍聴取部位を事前学修して演習に臨む (概ね1時間)		坂村 佐知 佐藤 理恵 武田 美奈子 岡崎 草代夏	
8	妊婦・産婦の看護にかかわる実技 A: 妊娠経過表作成 B: レオポルド触診法、胎児心拍聴取、妊婦体験、 妊婦体操					【事後】演習課題レポートを作成する (概ね1時間)		菊地 明子 畑中 晶子	
9	【遠隔授業】産褥期の看護① 褥婦のアセスメント・褥婦のセルフケアを支える看護					【事前】産褥期の身体的変化を復習して授業に臨む (概ね1時間)		佐藤 理恵	
10	【オンライン・遠隔授業】産褥期の看護② 母親になることへの看護：母親役割過程、新生児の看護にかかわる技術 (抱き方・寝かせ方、衣類の交換、おむつ交換) の実技					【事前】母性看護技術 (199頁から209頁) を予習してくる (概ね1時間) 【事後】授業で行った実技のポイントを復習する (概ね30分)		佐藤 理恵 坂村 佐知	

回	授業計画	準備学修	担当
11	【遠隔授業】産褥期の看護③ 母乳育児と看護:母乳分泌のメカニズムに基づいた母乳育児支援	【事後】母乳メカニズムについて復習する(概ね1時間)	佐藤 理恵
12	【遠隔授業】産褥期の看護④ 産褥期の異常と看護のポイント(子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産後精神障害、下部尿路障害他)	【事前】子宮復古不全・産褥熱・乳腺炎の病態生理をレポートにまとめて授業に臨む(概ね1時間)	佐藤 理恵
13	【遠隔授業】新生児期の看護① 新生児のアセスメント	【事前】新生児の生理的特徴を復習して授業に臨む(概ね1時間)	坂村 佐知
14	【遠隔授業】新生児期の看護② 出生直後から24時間以内の看護ケア	【事後】新生児の子宮外生活適応過程を復習する(概ね1時間)	坂村 佐知
15	【オンライン・遠隔授業】新生児期の看護③ 早期新生児期の看護ケアの実際	【事後】新生児の観察項目を復習する(概ね1時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵
16	【遠隔授業】新生児期の看護④ 新生児期の異常:ハイリスク新生児の看護のポイント(呼吸障害、循環障害、代謝障害、早産児・低出生体重児他)	【事後】新生児にみられる病態・疾患を復習する(概ね1時間)	坂村 佐知
17	【遠隔授業】特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援 特定妊婦・不妊治療後の妊娠・外国人妊婦の支援・災害時の妊婦の支援・虐待予防	【事前】不妊治療を復習して授業に臨む(概ね1時間)	佐藤 理恵
18	褥婦・新生児の看護にかかわる実技 A:退院に向けての保健指導・沐浴法 B:新生児のフィジカルアセスメント	ABクラス分けて実施 【事前】新生児の観察方法と沐浴法を事前学修して演習に臨む(概ね2時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵 長橋 美栄子 阿部 幹佳 武田 美奈子
19	褥婦・新生児の看護にかかわる実技 A:新生児のフィジカルアセスメント B:退院に向けての保健指導・沐浴法	【事後】演習課題レポートを作成する(概ね1時間)	黒木 雅美 岡崎 草代夏 菊地 明子 畑中 晶子
20	【遠隔授業】看護過程の展開①:母性看護学における看護過程	【事前】看護過程の基本的事項や構成要素を復習して演習に臨む(概ね1時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵
21	【オンライン・遠隔授業】看護過程の展開②:情報収集とアセスメント(グループワーク)	【事前】看護過程アセスメント用紙を完成させて演習に臨む(概ね3時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵
22	【オンライン・遠隔授業】看護過程の展開③:アセスメントの総括・看護診断(グループワーク)	【事後】看護過程の課題を作成する(概ね3時間)	坂村 佐知 佐藤 理恵
23	【オンライン・遠隔授業】看護過程の展開④:到達目標・看護計画・看護の実施・評価		坂村 佐知 佐藤 理恵
教科書	「ナーシング・グラフィカ 母性看護学(2)母性看護の実践」小林康江他編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 母性看護学(3)母性看護技術」荒木奈緒他編、MCメディカ出版		
参考文献	「病気がみえるvol.10 産科」医療情報科学研究所編、メディックメディア 「ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図」佐世正勝・石村由利子編集、医学書院 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」太田操編著、医歯薬出版 「アセスメントスキルを修得し質の高い周産期ケアを追求する 母性看護学II 周産期各論」有森直子編著、医歯薬出版社		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細な講義スケジュールについては、第1回講義時に説明する。また、講義との調整のため、演習日程が変更となる可能性がある。 ・課題レポートは指定された日時までに提出する。 ・確認テスト(小テスト)を不定期に実施する。 		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

CLoCMiP®レベルⅢ認定アドバンス助産師が、臨床での事例を挙げながら母子そしてその家族へ具体的支援について説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-20			
	●	●	●	●	●				
科目名	精神看護学援助論Ⅱ				単位認定者	阿部 幹佳		試験(筆記)	20 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	授業内課題	60 %
					授業形態	演習	授業時間数	45 時間	受講態度
						授業回数	23 回		
授業の概要	精神看護を実践するための知識と技術を学ぶことを目的とする。具体的には精神科における治療と看護、精神科リハビリテーション、精神保健福祉活動を学習し理解を深める。対象者へのアプローチとしては、心理学的アプローチ及び治療的コミュニケーションについて学ぶ。また、これらの学修を通して精神科におけるアドボカシーについて理解を深める。								
到達目標	①精神疾患の特徴や看護支援の概要について説明出来る ②精神疾患の具体的事例について、個人やグループで情報収集・アセスメント・かかわり方を検討し、記載できる。								
学修者への期待等	精神看護学援助論Ⅱでは精神障害(疾患)とそのケアの実際について学修します。精神科看護の対象者を1人の人間として身体、心理、社会・スピリチュアルという全人的視点から捉えられるようになることを期待します。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	遠隔 【講義】精神看護における対象の理解 終了時、LMSで理解度を確認する				事前学修：教科書② 4 精神科における対象の理解、7 精神保健活動とリハビリテーション中の 4 精神障害者にとってのリハビリテーション、を読む(約1時間)			阿部 幹佳	
2	遠隔 【講義】精神科看護におけるケアの方法 治療的かかわりと日常生活援助 ～精神看護におけるコミュニケーション 終了時、LMSで理解度を確認する				事前学修：教科書① 10 精神医療の歴史と看護中の 4 社会精神医学的な考え方：病院から地域へ、教科書② 5 精神科におけるケアの方法中の 1 「治療的関わり」の考え方、2 日常生活行動の援助、を読む(約1時間)			阿部 幹佳	
3	リアルタイム遠隔もしくは学内(601講義室のみ) 【講義】精神障害と看護の実際 (1) 統合失調症患者の看護 終了時、LMSで理解度を確認する				事前学修：教科書② 1 精神症状と精神疾患中の 3 統合失調症、9 事例に学ぶ看護の実際中の、1 統合失調症(急性期)患者の看護の実際、2 統合失調症(慢性期)患者の看護の実際、を読む(約1時間)			阿部 幹佳	
4	リアルタイム遠隔もしくは学内(601講義室のみ) 【実技】精神障害と看護の実際 (2) ケーススタディ (情報整理・アセスメント・関わり方の検討) 3,4と連続で実施				事後学修：ケーススタディを再度読み直し復習する(約1時間)			阿部 幹佳	
5	遠隔 【講義】精神保健活動とリハビリテーション				事前学修：教科書② 7 精神保健活動とリハビリテーション中の 1 精神科リハビリテーションの考え方、を読む(約1時間)			阿部 幹佳 黒木 雅美	
6	遠隔 【講義】精神保健活動における社会資源の活用				事前学修：教科書② 7 精神保健活動とリハビリテーション中の 2 地域精神保健活動における社会資源の活用 3 在宅医療との連携、を読む(約1時間)			阿部 幹佳 黒木 雅美	
7	リアルタイム遠隔もしくは学内(601講義室のみ) 【講義】精神障害と看護の実際 (3) うつ病患者の看護 終了時、LMSで理解度を確認する				事前学修：教科書② 1 精神症状と精神疾患中の 4 抑うつ障害と双極性障害、9 事例に学ぶ看護の実際中の、4 うつ病患者の看護の実際、を読む(約1時間)			阿部 幹佳	
8	リアルタイム遠隔もしくは学内(601講義室のみ) 【実技】精神障害と看護の実際 (4) ケーススタディ (情報整理・アセスメント・関わり方の検討) 7,8と連続で実施				事後学修：ケーススタディを再度読み直し復習する(約1時間)			阿部 幹佳	
9	リアルタイム遠隔 【実践からの学び】地域精神保健活動の実際				事前学修：地域精神保健活動にはどんなものがあるのか調べておく。教科書② 7 精神保健活動とリハビリテーション中の 2 地域精神保健活動における社会資源の活用、3 在宅医療との連携、を読む(約1時間)			阿部 幹佳 長橋 美榮子 黒木 雅美	
10	リアルタイム遠隔 【実践からの学び】地域精神保健活動の実際				学修後に課題レポートを提出する			阿部 幹佳 長橋 美榮子 黒木 雅美	

回	授業計画	準備学修	担当
11	遠隔 【講義】精神障害と看護の実際 (5) 発達障害のある子どもの理解	事前学修：教科書② 1 精神症状と精神疾患中の 2 神経発達症：成人期の自閉症スペクトラム障害 (ASD)、を読む (約1時間)	長橋 美榮子 星 仁美
12	遠隔 【実技】精神障害と看護の実際 (6) 発達障害のある子どもの支援 11, 12と同日に連続講義		長橋 美榮子 星 仁美
13	遠隔 【講義】東日本大震災における心のケア活動	事前学修：教科書①災害時地域精神保健医療活動 (pp. 45)、②災害時地域精神保健医療活動 (pp. 227) を読み、災害看護の復習をして臨む (約30分)	長橋 美榮子 岡崎 茂
14	リアルタイム遠隔 【講義】看護の倫理と人権擁護 終了時、LMSで理解度を確認する	事前学修：教科書①看護の倫理と人権擁護を読み、精神医療におけるアドボカシーの必要性とは何かを調べておく (約1時間)	阿部 幹佳 黒木 雅美
15	リアルタイム遠隔もしくは学内 (601講義室のみ) 【講義】精神障害と看護の実際 (7) アルコール依存症患者の看護	事前学修：教科書①嗜癖と依存、②物質関連障害、を読む (約1時間)	阿部 幹佳
16	リアルタイム遠隔もしくは学内 (601講義室のみ) 【実技】精神障害と看護の実際 (8) ケーススタディ (情報整理・アセスメント・関わり方の検討) 15, 16と連続で実施	事後学修：ケーススタディを再度読み直し復習する (約1時間) 学修後にケーススタディを提出する	阿部 幹佳
17	リアルタイム遠隔もしくは学内 (601講義室のみ) 【講義】精神障害と看護の実際 (9) 神経症性障害等の看護 終了時、LMSで理解度を確認する	事前学修：教科書② 5 不安障害、6 強迫性障害 (OCD)、8 解離性障害、9 身体症状性および関連症、10 摂食障害、を読む (約1時間)	阿部 幹佳
18	リアルタイム遠隔もしくは学内 (601講義室のみ) 【実技】精神障害と看護の実際 (10) ケーススタディ (情報整理・アセスメント・関わり方の検討) 17, 18と連続で実施	事後学修：ケーススタディを再度読み直し復習する (約1時間)	阿部 幹佳
19	遠隔 【講義】家族とその支援の実際	事前学修：教科書① 7 家族とその支援、②14 パーソナリティ障害を読む (約1時間)	阿部 幹佳 黒木 雅美
20	遠隔 【講義】精神看護学実習に向けて (1) 精神科の看護実習とは	事前学修：教科書②10 臨地実習から学ぶ 1 精神科の看護実習とは、2 患者からのさまざまな感情表出、を読む。精神看護学実習においてなぜ自己理解と他者理解が必要なのか考える (約1時間)	阿部 幹佳 長橋 美榮子 黒木 雅美 煤孫 久子
21	遠隔 【実技】精神科看護実習に向けて (2) 記録・カンファレンスの意義 看護場面の再構成 (プロセスレコード) 終了時、LMSで理解度を確認する	事前学修：教科書②10 臨地実習から学ぶ 3 カンファレンスの意義、4 実習の記録を読む。さらに日常生活の対人関係で自分が振り返りたい場面を考えてくる (約1時間) 事後学修：プロセスレコードを作成し提出する。	阿部 幹佳 長橋 美榮子 黒木 雅美 煤孫 久子
22	リアルタイム遠隔もしくは学内 (601講義室+602講義室) 【グループディスカッション】 精神科看護実習に向けて (3) 情報収集とアセスメント～ケーススタディ	事前学修：ケーススタディを復習する (約1時間)	阿部 幹佳 長橋 美榮子 黒木 雅美 煤孫 久子
23	リアルタイム遠隔もしくは学内 (601講義室のみ) 【プレゼンテーション】精神科看護実習に向けて (4) ケーススタディ発表会 22, 23と連続で実施	事後学修：ケーススタディを再度読み直し復習する (約1時間)	阿部 幹佳 長橋 美榮子 黒木 雅美 煤孫 久子
教科書	①「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本」出口禎子編、MCメディカ出版 ②「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実際」出口禎子編、MCメディカ出版		
参考文献	「困難事例に学ぶ精神科看護技術」井之頭病院看護部編、中央法規 「精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア ころろ・からだ・かかわりのプラクティス」萱間真美・野田文隆編、南江堂 「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研		
備考	講義資料として印刷物等を適宜配布する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての資格、経験より、精神科看護の実際を具体的に分かりやすく説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-3-AIC-04			
	●	●	●	●	●				
科目名	在宅看護援助論Ⅱ				単位認定者	高橋 由美 須藤 千寿美		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	
						授業時間数	45 時間		
				授業形態	演習	授業回数	23 回		
授業の概要	在宅で提供する看護の基礎的な技術と終末期看護や他職種との協働の実際を事例を通して学ぶ。在宅看護技術の演習を含む展開とする。つまり、在宅療養者とその家族や環境を理解し、状況に応じた支援方法や援助技術を習得する。在宅における医療管理を必要とする人とその特徴的な看護や、日常生活能力のアセスメント、在宅看護過程の展開や社会資源の活用方法、多職種との連携、看護師が果たす役割について、講義・演習・グループワークにより学ぶ。								
到達目標	1. さまざまな事例から在宅療養者とその家族や環境を理解し、状況に応じた支援方法や援助技術を習得することができる。 2. 在宅における医療管理を必要とする人とその特徴的な看護について習得することができる。								
学修者への期待等	在宅看護は対象者と家族の尊厳のある生活を支える個別ケアである。従ってプライバシーを守ることやあらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断力など、看護師のより高い資質が求められる。人間理解の学修は基より、あらゆる看護領域の既修の知識・技術が基本となるため、関連領域の振り返りを行った上で臨んでほしい。								
回	授業計画					準備学修		担当名	
1	【遠隔授業】在宅における援助技術 ①生活・医療ケアの原則							高橋 由美	
2	【遠隔授業】在宅における援助技術 ②食の援助					【事前】テキストP56-62の食生活について予習すること(30分程度)		須藤 千寿美	
3	【遠隔授業】在宅における援助技術 ③在宅経管栄養法 在宅中心静脈栄養法					【事前】テキストP102-109の経管栄養法・輸液管理について予習すること(30分程度)		須藤 千寿美	
4	【遠隔授業】在宅における援助技術 ④清潔の援助							高橋 由美	
5	【遠隔授業】在宅における援助技術 ⑤移動の援助 排泄の援助							高橋 由美	
6	【遠隔授業】在宅における援助技術 ⑥感染予防 褥瘡予防					【事前】テキストP45-47の感染予防とテキストP144-148の褥瘡管理について予習すること(30分程度)		須藤 千寿美	
7	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ①脳血管疾患患者とその家族					【事前】テキストP62-65の呼吸ケアとテキストP110-115の排痰ケアについて予習すること(30分程度)		須藤 千寿美	
8	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ②在宅での生活を希望する脳梗塞後遺症のある高齢者					【事前】事例に関連する疾患と看護について復習しておくこと(1時間程度)		須藤 千寿美	
9	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ③在宅の認知症高齢者とその家族							須藤 千寿美	

回	授業計画	準備学修	担当名
10	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ④被虐待が疑われる認知症高齢者	【事前】事例に関連する疾患と看護について復習しておくこと (1時間程度)	須藤 千寿美
11	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ⑦在宅で療養する障害者(成人)		須藤 千寿美
12	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ⑧在宅で療養する障害者(小児)		須藤 千寿美
13	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ⑤在宅難病療養者とその家族		高橋 由美
14	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ⑥在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS患者		高橋 由美
15	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ⑨ターミナル期の療養者とその家族		高橋 由美
16	【遠隔授業】事例にみる在宅看護 ⑩最期まで自宅で過ごしいターミナル期のがん療養者		高橋 由美
17	【遠隔授業】在宅における援助技術 ⑦呼吸の援助と医療ケア	【事前】テキストP62-65の呼吸ケアとテキストP110-115の排痰ケアについて予習すること (30分程度)	高橋 由美
18	在宅における援助技術 ⑧在宅酸素療法と援助の実際		高橋 由美 須藤 千寿美 鶴岡 早苗 中野 千加子
19	在宅における援助技術 ⑨在宅人工呼吸療法と援助の実際		高橋 由美 須藤 千寿美 鶴岡 早苗 中野 千加子
20	【遠隔授業】訪問看護過程①事例検討(初回訪問、情報収集)	【事前】看護過程とケアマネジメントについて復習しておくこと (1時間程度)	須藤 千寿美
21	訪問看護過程②事例検討(アセスメント)		高橋 由美 須藤 千寿美 鶴岡 早苗 中野 千加子
22	訪問看護過程③事例検討(看護計画の立案)		高橋 由美 須藤 千寿美 鶴岡 早苗 中野 千加子
23	【遠隔授業】事例にみる在宅看護・まとめ		高橋 由美
教科書	「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論(2):在宅療養を支える技術」臺有桂他編、MCメディカ出版		
参考文献	「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論(1):地域療養を支えるケア」臺有桂他編、MCメディカ出版 「写真でわかる訪問看護」押川真喜子監修、インターメディカ 「場面でまなぶ在宅看護論」臺有桂他編、MCメディカ出版		
備考	担当教員 専任教員:高橋由美、須藤千寿美 非常勤講師:鶴岡早苗、中野千加子		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護職として、さらに訪問看護師や介護支援専門員の実務経験を活かし、具体的事例や看護実践方法を紹介しながら授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-3-AIC-06		
	●	●	●	●	●			
科目名	災害看護				単位 認定者	阿部 阿部	春美 幹佳	試験 (レポート) 50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題 40 %
							授業時間数	30 時間
				授業形態	演習	授業回数		15 回
授業の概要	災害看護の概要を学ぶとともに、災害に対する看護の基本的な知識・技術・役割について理解する。また東日本大震災の被災地として、災害の発生に備えて実践的対応が必要となることから、地域と密着した形で災害発生時の対応について看護者として演習に参加し学ぶ。							
到達目標	1. 災害看護の概要と災害時の看護の役割を理解できる 2. 災害に備えた実践的対応について理解できる 3. 地域と密着した災害発生時の対応について理解できる 4. 看護職に必要な放射線の基礎知識、放射線防護の対策が理解できる							
学修者への期待等	東日本大震災の被災地で災害看護を学ぶにあたり、被災地は基より、地域社会の情勢に関心を向けることまた、応用力、想像力、創造力を発揮し、主体的に学んでほしい							
回	授業計画				準備学修		担当	
1	【講義】災害・災害看護とは、災害看護の歴史、防災計画とシステム、災害医療の支援、災害に関する法律				教科書① (災害看護のあゆみ、災害医療の基礎知識) について予習してくること		阿部 春美	
2	【講義】災害サイクルに応じた看護 ①災害直後				課題：動画【日本赤十字社】石巻赤十字病院～東日本大震災発動の記録～を聴取し、感じ、考えたことをまとめる (1時間程度)		阿部 春美	
3	【講義】災害サイクルに応じた看護 ②急性期						阿部 春美	
4	【実技①】災害時の看護の実際：災害トリアージ ※ ナーシングチャンネル使用				教科書① (トリアージ) について予習してくること		阿部 春美 阿部 幹佳 一他	
5	【講義】災害サイクルに応じた看護 ③中長期				教科書① (災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護) について予習してくること		高橋 由美	
6	【実技④】避難所の開設・運営：要援護者への対応				A/B/Cの3グループ編成		阿部 春美 阿部 幹佳	
7	登校【実技⑤】避難所の開設・運営：搬送法、生活環境整備				A/B/Cの3グループ編成		阿部 春美 阿部 幹佳	
8	【講義】災害とこころのケア				教科書① (災害とこころのケア) について予習してくること		阿部 幹佳 須藤 千寿美	
9	リアルタイム 【実技②】災害時の看護の実際： 支援者のストレスマネジメント				平時の自身のストレスへの対処法を考えてくること		阿部 幹佳	
10	【実技】災害時の看護の実際：災害時に起こる疾患の特徴と外傷の応急処置				これまでの学修内容を復習してくること (1時間程度)		阿部 春美 阿部 幹佳	
11	リアルタイム【実技⑥】避難所の開設・運営 (HUG:避難所運営ゲーム)						阿部 春美 阿部 幹佳	
12	リアルタイム 避難所の開設・運営 (オンライン：グループワーク)				課題：「看護師として、避難所での集団生活で注意すべき健康障害の予防対策について」講義・演習を基に考察し、レポートを作成する (5時間程度)		阿部 春美 阿部 幹佳 他専任教員	
13	リアルタイム 避難所の開設・運営 (オンライン：学びの発表会)						阿部 春美 阿部 幹佳 他専任教員	
14	【講義】放射線看護：放射線診療の概要と看護職の役割				教科書② (放射線利用と看護職の役割) について予習してくること		阿部 春美 須藤 千寿美	
15	【講義】放射線看護：放射線診療の安全管理と看護職の関わり【デモストレーション】簡易放射線測定器を用いた遮蔽効果の確認				教科書② (放射線被ばくに伴う健康影響を理解する) について予習してくること		阿部 春美 須藤 千寿美	
教科書	①「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学」浦田喜久子他著、医学書院 ②「看護と放射線—放射線を正しく理解する—」公益社団法人日本アイソトープ協会編、丸善出版							
参考文献	「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 (3) :災害看護」酒井明子編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本」出口禎子ら編、MCメディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践」出口禎子ら編、MCメディカ出版							
備考								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

宮城県防災指導員認定、文部科学省「国際原子力人材育成イニシアティブ事業「看護職の原子力・放射線教育のためのトレーナーズトレーニングを受講している教員が担当します。
臨床現場、地域・被災者支援の経験を持つ教員とともに、災害の発生に備えて、地域と密着した災害発生時の対応について学びましょう。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-21			
	●	●	●	●	●				
科目名	精神看護学実習				単位認定者	長橋 美榮子 阿部 幹佳		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		80 時間
							授業回数		集中
授業の概要	精神科病院や精神保健福祉サービスを利用する対象者との関わりを通してこころを病むということを理解し、対象者の抱える問題を共有する中で必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける。また、かかわりを通して自己理解を深め洞察できる能力を養う。対象者とのかかわりの中で精神障害者が社会の中でどのように受け入れられているのかを学習する。								
学修者への期待等	実習前に精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し実習に臨むこと。積極的に対象者とかかわり、自分自身の気づきを通して対象者の理解ができるように努めること。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：9月の指定日（一部学生）、加えて2020年5月18日（月）～10月30日（金）までの指定された2週間</p> <p>II. 実習場所：学内及びインターネット上での遠隔実習（5/18-8/7予定） 病院：せんだんホスピタル（9/14以降 一部学生対象） 地域：障害福祉サービス事業所・障害者小規模地域活動センターのいずれか1施設（10/1以降 一部学生対象 1日）</p> <p>III. 実習目的：精神科病院や精神保健福祉サービスを利用する対象者とかかわりを通して（もしくは対象者をイメージし）、こころを病むということを理解し、対象者の抱える問題を共有する中で必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける</p> <p>IV. 実習目標： 1 対象者とかかわりもしくは映像資料等で学ぶ中で、信頼関係を構築するための看護師－患者関係を考察できる 2 様々な立場の人とかかわりにおいて生じる自分の気持ちを吟味し、自己理解を深める 3 対象者を精神的、身体的、社会的な側面から理解し、対象者が抱えている課題をともに明らかにしていくことの重要性を考察できる 4 こころを病む人が地域で生活していく上で求められる看護職の役割を理解する 5 看護職を目指す者として望ましい姿勢で実習に取り組むことができる</p> <p>V. 実習計画 1 患者を受け持ち、プロセスレコードを通して自分自身の対人関係の傾向について考察する 2 患者の全体像をとらえ、患者に必要な援助を考察することができる 3 対象者の地域での生活を理解し、必要な保健・福祉・医療チームとの連携を学ぶ</p> <p>VI. 成績評価：実習目標の達成度により評価する。詳細は実習要項参照</p>									
教科書	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本」出口禎子編、MCメディアカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践」出口禎子編、MCメディアカ出版								
参考文献	「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者 専任教員：長橋美榮子、阿部幹佳、黒木雅美 非常勤講師：煤孫久子								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の資格及び臨床経験に基づき、学生が精神障害者と関わり、実習目標が達成できるような環境を整え、教授する。